

- 事故後の食品安全科学に関する国際ワークショップ -

ワークショップの概要と目的

マイク・ボイド
CRPPH 議長
米国環境防護庁

本間 俊充
CRPPH ビューロ
日本原子力研究開発機構

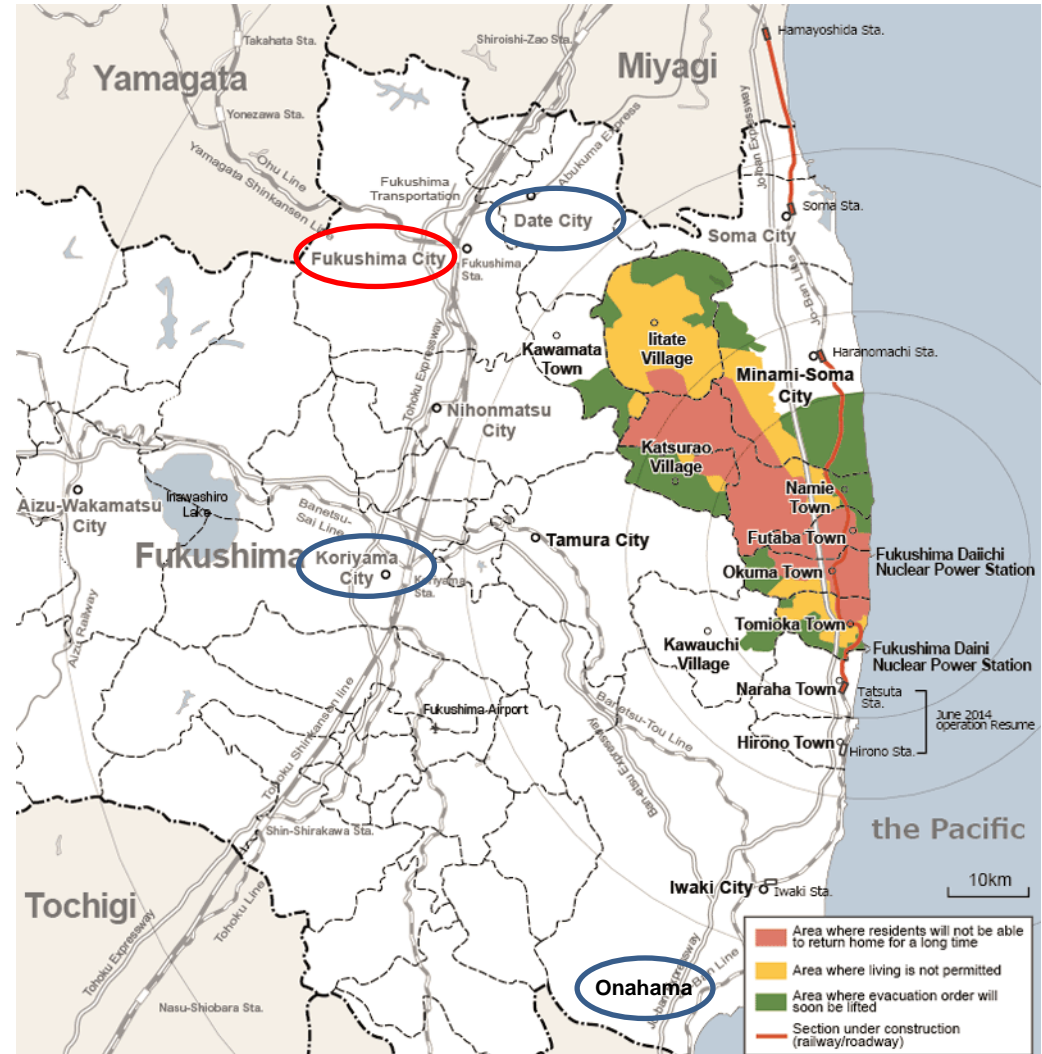
2016年11月8日 – 10日
福島市

ワークショップの目的

- 事故後の食品安全に関する最新の科学的な側面を述べる
 - 食品への放射性核種の移行と線量評価のモデリング
 - 食物の汚染を低減させるための農業対策
 - 測定手法
- 事故後の食品安全に関する、地元、国内、および国際的なマネジメントの状況と残された課題について述べる
- 残された課題に対処するためのアプローチを議論する

ワークショップ前の視察

- 小名浜魚市場(いわき市)
- 福島県農業総合センター(郡山市)
- JAふくしま未来 杉田駄子内倉庫(二本松市)
- 伊達果実農業協同組合(桑折町)



ワークショップの議題

1日目

セッション 1: 福島第一原子力発電所事故後の日本における食品管理の状況

- 事故による放射能の放出と汚染領域の状況
- 事故による海洋汚染状況
- 食品中の放射性核種の現況と対策
- 農産物汚染低減のための農業対策
- 食品検査の実施状況と結果 (出荷前と流通段階)
- 農村部の事故影響の5年間のまとめ

ワークショップの議題

セッション 2: 汚染地域の食品生産と流通に対する地元 の対策

- 農業高校における地域との共同の取り組み
- 汚染農地の評価と安全な農産物の生産活動
- 福島県におけるアンポ柿生産の実際的側面
- 福島県における漁業の実際
- 安全な福島畜産物の生産
- 福島県産食品の流通管理
- 消費者側からの福島産品の応援

ワークショップの議題

2日目

セッション 3: 最新の事故後食品安全科学

- コーデックス委員会: 汚染農地からの輸入食品に対する基準
- 現存被ばく状況に適用する食品と飲料水に関する現状の国際基準履行の課題
- 原子力機関の事故後食品管理の枠組み
- 汚染された土地での植物管理: 科学、技術とその状況
- 海産物中の放射性核種測定の良い管理
- 汚染された農地で生産された食品の流通段階での最新の測定と評価

ワークショップの議題

セッション 4: 事故後食品安全に対する各国の規制および管理方法の例

- チェルノブイリ事故で影響を受けた国の食物生産と流通の管理に対する規制ガイダンスと現状の実際的なアプローチ (例: 英国, ノルウェー, ベラルーシ)

- 福島県における食品汚染に対するメカニズムや対策の研究 (例: 米, 果樹, 畜産物, 海産物)

ワークショップの議題

3日目

セッション 5: ワークショップのまとめ

- 福島県民に結果を公表するパブリック会合のために、各セッションでキーとなったポイントをまとめる。

記者会見

- ワークショップの出席者が記者の質問に答える。

パブリックミーティング

- 本会合は、関心のあるすべての市民に公開され、ワークショップの結果を述べ、質問に答える時間とする。